

図表 6-4 韓国の 1999 年度分野別福祉予算案

単位：億ウォン，%

区分	98 予算	99 予算	増加率	核心事項
1. 社会福祉サービス	4,717	5,026	6.6	福祉サービス予算の増大幅が相対的に僅か
①老人福祉	1,690	1,897	12.2	老人共同作業場 30ヶ所、サハリン韓国人同胞養老支援等の新規事業
②障害者福祉	1,062	1,156	8.9	視覚障害者お手伝いセンター、手話通訳センター、視覚障害者ウインドウズプログラム等の新規事業
③児童福祉	447	465	4.0	機能補強およびグループホーム支援額の削減
④保育事業	1,077	1,118	3.8	施設機能補強支援額の削減
⑤女性および母子家庭福祉	169	158	△ 6.6	女性社会教育情報データベース構築を新規事業で展開、施設機能補強支援額の削減
⑥ホームレス福祉	114	114	0.2	機能補強費の削減
⑦社会福祉館	158	118	△25.3	機能補強費の削減
2. その他社会福祉	344	376	9.3	公益勤務要員・家庭内暴力防止事業等を新規事業で展開、社会福祉研修院・家庭福祉団体への支援額の削減

出所：韓国参与連帯社会福祉委員会(1998)『月間福祉動向 11月号』；保健福祉部企画予算課，△はマイナス

図表 6 - 5 社会福祉館評価基準

	区 分	評 価 基 準
努力性 (k)	人的資源(a)	<ul style="list-style-type: none"> - 福祉士数が多いほど(+) - 総従事者数が多いほど(+)(人件費で表わす) - 法定福祉士数を超過する社会福祉士数が多いほど(+) - 総従事者のうち社会福祉士の比率が高いほど(+) - 社会福祉士の資格所持の比率が高いほど(+)
	物的資源(b)	<ul style="list-style-type: none"> - 建物面積が広いほど(+) - 総支出が多いほど(+) - 運営原則が事業遂行時によく守られているほど(+) - 収入のうち法人負担比率が多いほど(+)
サービスの質 (m)	プログラム 評価(c)	<ul style="list-style-type: none"> - 総支出における事業費支出比率が高いほど(+) - 社会福祉士の各事業別、利用者一人当たりの投与時間が多いほど(+) - 各事業別の脱落率(脱落者数/利用者数)が低いほど(+) - 社会福祉士の総勤務時間中、利用者に投与する時間が多いほど(+)
	職務満足度 (d)	<ul style="list-style-type: none"> - 社会福祉館の内部業務における満足度が高いほど(+) - 他者との人間関係における満足度が高いほど(+) - その他、満足度が高いほど(+)
地域福祉資源 動員能力(n)	ボランティア (e)	<ul style="list-style-type: none"> - 社会福祉館当たりの総ボランティア時間が多いほど(+) - ボランティアが長期的に勤務し、ボランティア活動を中断した人が少ないほど(+) - 福祉館自体のボランティア動員のための広報努力が多いほど(+) - ボランティア管理のための努力(教育および評価)が多いほど(+)
	諮問委員会 および 後援会(f)	<ul style="list-style-type: none"> - 諮問委員会が運営されている場合(+) - 後援金が多いほど(+) - 後援者が多いほど(+)
公平性 (p)	低所得層の 利用程度(g)	<ul style="list-style-type: none"> - 社会福祉館の位置が永久賃貸アパート地域(生活保護対象者居住)や零細民(貧困層)居住地域の場合または周辺住民の所得が低いほど(+) - プログラム利用者のうち生活保護対象者や低所得層の比率が高いほど(+)
	低所得層に 対する財政 的恩恵(h)	<ul style="list-style-type: none"> - 総収入の中で利用料収入の比率が少ないほど(+) - 低所得層の利用料が相対的に低廉であるほど(+)

出所：イ・ボンソン他(1996)